

展示品の
みどころ

も ぞう ひのきのわ ごん
模造 檜和琴



木製 金銀泥 森川杜園 作
長155.5cm 明治時代(19世紀)
当館

和琴はわが国に固有の絃楽器で、正倉院にはおよそ10張が伝存する。本品はそのうちもっとも小型で華やかに装飾された品の模造である。明治8年(1875)の奈良博覧会に原宝物が出陳されたのに合わせ、奈良博覧会社が模造を企画した。製作を手がけたのは奈良の木彫家・森川杜園で、彼が模造にあたって作成したと見られる原宝物の詳細なスケッチ(『正倉院御物写』東京大学大学院工学系研究科建築学専攻蔵)も残されている。

ところで本品は、原宝物と比べて螺鈿や玳瑁による装飾がなく、側面では文様を模写した貼紙をするにとどめるなど、つくりが簡略になっている。模造が行われた当時、原宝物は損傷が進み、装飾の大部分を失っていたようで、こうした事情が装飾の復元を困難にしたのかもしれない。

一方、表面を飾る金銀泥の文様は、かなり積極的な復元が試みられている。前述したスケッチには、特定の文様を繰り返して写している箇所があるが、これは原宝物では失われている文様の復元のため、杜園が試行錯誤した様子を伝えるものと考えられている。当時の模造のあり方の一端がうかがえると同時に、杜園の模造に対する姿勢をも示す興味深い作品である。

三本 周作(当館学芸部研究員)

◆7月4日～9月6日 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」にて展示

じ ぞう ほ さつりゅう ぞう
地蔵菩薩立像



木造 彩色・截金
像高36.6cm
鎌倉時代(13世紀)
当館

東大寺薬師院伝来といわれる像。左手に宝珠(欠失)を載せ、右手に錫杖(後補)を執り、ともに胸前で構える。蓮華座下部の湧雲は後補のものに替わるが、当初から同様の仕様と思われる。このような乗雲の地蔵菩薩は、春日三宮の本地仏として衆生救済のため来迎した姿と考えられ、中世の奈良地方で盛んに制作された。

本像は仏師快慶(生年不詳～1227以前)による東大寺公慶堂伝来の地蔵菩薩立像とよく似ており、両腕の構えや右足を前に出しやや前傾する姿勢、截金と彩色による着衣の文様構成など、細部に至るまで公慶堂像に倣う。切れ長の目や整った衣文も快慶に通じ、その作風をよく学んだ仏師の作と解される。

また、右肩をおおう覆肩衣が右胸の下でたるむ形式は快慶法橋時代の特徴で、この期の作である公慶堂像と共通する一方、目の見開きがやや大きく鼻梁が太い男性的な面貌は快慶無位時代の作風に通じ、異なる時期の快慶作品の要素が混在するのは興味深い。小像ながら、確かな存在感を放つ入念の作である。

内藤 航(当館学芸部研究員)

◆名品展「珠玉の仏たち」にて展示

■開館日時(7月～9月)

【7月4日(土)～9月6日(日)】

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※金曜日は午後7時まで。

※入館は閉館の30分前まで。

※9月7日(月)以降の開館時間は未定です。

決定次第当館ホームページ等でご案内します。

■休館日／毎週月曜日

※ただし8月10日(月・祝)は開館。

※8月11日(火)は、特別展は休館し、名品展のみ開館します

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※開館時間延長日の午後5時以降に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(レイト割引)。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■観覧料金 特別展「よみがえる正倉院宝物」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,500円	1,000円	500円
団体・前売	1,300円	800円	300円

※団体は20名以上です。 ※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券が400円、教職員の方は当日券が団体料金となります。

※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。

※前売券の販売は終了しました。会期が変更となりましたが、ご購入済みの前売券はそのままお使いいただけます(ただしアプリ/ユーティリティでのご購入の場合は手続きが必要となります)。払い戻しをご希望の方は、ご購入場所のお手続きとなります(9月5日まで)。詳細は当館ホームページまたは展覧会公式ホームページでご確認ください。



○バス停
[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。